

私の目指す弁理士像

No. 72

会員 中谷 智子

弁理士になってはや1年が経ちました。弁理士になった時、試験勉強から解放された開放感とこれから先何を目指して進めばよいのかという不安を感じたのを今でも覚えています。その時から漠然と意識し始めた「私が目指す弁理士像」は、常にそれまでに会った多くの方々を脳裏に浮かべながら考えてきたように思います。

これまで、色々な方に刺激を受けてきました。その中でも印象に残ったのは、弁理士を目指していた頃、先輩から弁理士は広い視野を持ったジェネラリストであって欲しいと言われたことです。会社にとって、とりわけ以前勤務していた製薬企業にとって特許は重要な要素であります。しかし、重要な要素の一つに過ぎないこともまた事実です。知的財産に絡む問題は、しばしばその背景に知的財産以外に考慮すべき多くの事情を含んでいます。そのような問題に直面したとき、知的財産の枠組みの中だけで考えるのではなく、広い視野を持った上で結論の出せる弁理士が必要だと言われました。弁理士となって自分の進むべき方向に悩んだ時、この先輩の言葉がまず頭に浮かびました。もちろん、ジェネラリストになると言っても、結局は一つ一つの知識と経験の積み重ねが必要です。広く世の中に関心を持ち、今まで経験してこなかったこと、学んでこなかったことに、積極的にチャレンジしていきたいと思っています。

また、多くの優秀な方々と接する機会に恵まれ、それらの方がみな非常に高い専門性を有することに感銘と尊敬の念を覚えてきました。何か一つでも高い専門性を持つことで、弁理士として仕事をしていく上で自信につながるのではないかと思います。そして、それらの方々と出会うことで、ジェネラリストであることと、専門家であることは、一見相反しているようで両立するものだと気が付きました。両立するというよりは、むしろ、広く経験と知識を積み重ねていくうちに得意な分野も見つかるということなのかもしれません。

弁理士となって1年が経ち、それまで勤めていた会社を辞めて特許事務所に転職しました。会社で勤務することと、特許事務所で勤務することのどちらがよいかということではなく、どのような経験を積みたいのか、その経験がどうすれば積めるのかを考えた結果、転職も一つの選択肢となり、その先がたまたま特許事務所になったのだと思います。

目指す道は未だに漠然としていますが、まずは努力を惜しまず色々なことにチャレンジしてみたいと思っています。今後も、多くの良き出会いを大切に、刺激を受けながら目指す弁理士に近づければと思います。最後に、これまでご指導頂き、またよい刺激を与えて下さった方々にこの場を借りて深くお礼申し上げます。